

1. 評価報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2470400090
法人名	グループホーム キノシタ有限会社
事業所名	グループホーム 亀山
所在地 (電話番号)	亀山市川崎町1586-1 (電話) 0595-85-8858
評価機関名	三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成19年10月26日(金)

【情報提供票より】 (19年10月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年4月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	22 人	常勤8人, 非常勤14人, 常勤換算12.8人	

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り		
	1 階建ての	階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	33,000 円	その他の経費(月額)	29,000 円	
敷金	有(円) <u>無</u>			
保証金の有無 (入居一時金含む)	<u>有</u> (50,000円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / <u>無</u>	
食材料費	朝食	400 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	0 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(10月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	7 名	女性	11 名
要介護1	4 名	要介護2	2 名		
要介護3	7 名	要介護4	5 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 82.7 歳	最低	73 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	鈴鹿クリニック 大木歯科 さくら病院
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームと同一敷地内に「特定施設入所者生活介護」「通所介護施設」「高齢者向け賃貸住宅」があり、ここだけで50名を超える高齢者が住む一つの小さな地域を作り出している。開設4年半のまだ新しい施設であり、内部は広くゆったりとしており、各居室もベッド2ヶがゆっくりとはいる広さがあり、利用者の尊厳を尊重した支援がなされている。仲の良い気の合った職員ばかりで、食事時も笑いのある楽しい雰囲気である。事業所の行事だけでなく地域の自治会行事にも参加し、地域密着型に溶け込んできている施設である。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回調査の改善課題の一部は改善されていたが、職員離職等があり一部未解決であり、現在新しいメンバーで改善に取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は管理者と一部の職員でなされているが、できるだけ職員全員で取り組まれることを期待する。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は昨年8月から継続して行われており定着しつつある。事業所からの報告に対し活発な意見交換が行われ、サービス向上に役立っている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	「ホーム通信」が毎月発行されており、利用者の日常生活の様子だけでなく、職員手書きの情報通信欄もあり、家族の不安対応に役立っている。また運営推進会議に利用者家族代表の出席もあり、意見の吸い上げには努力している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会にも加入しており、地域の行事には必ず参加している。また地域のボランティアや保育園児や中学生の訪問もあり、地域との交流もできてきている。

2. 評価報告書

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「自尊心、自己実現、共感」の理念が掲げられているが、設立当初からのものであり、現状にあった理念に見直しを考えている。	○	地域との関係性が重視されているので、地域との交流を意識した理念を、職員全員で検討されることを期待する。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日の申し送り時に、職員全員で理念の唱和をしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	事業所として自治会にも加入しているし、個人的ではあるが一部の利用者は老人会にも加入しており、各種行事には必ず参加している。地域のボランティアや保育園、中学生の訪問もある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者、職員とも自己評価・外部評価の意義は理解し、改善すべきところはミーティング等で検討し、改善につなげている。	○	自己評価は管理者と一部の職員でなされていたが、できるだけ全職員で取組まれることをお願いしたい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年8月から2ヶ月に1回継続して開催しており、報告、意見交換も活発で定着してきている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の職員とは運営推進会議以外にも、サービス実施内容報告や、利用者の空状況等の情報を伝えたりと連携に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	事業所内の生活情報や行事結果を掲載した「グッドホーム通信」や、会計収支報告を毎月家族に送っている。この「グッドホーム通信」には、各家族宛の職員が手書きする連絡欄もあり好評である。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情箱もあり運営推進会議に利用者代表の出席もある。また年1回ではあるが家族会もあり、意見の吸い上げに努力している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	やむをえない職員の離職があったが、利用者や家族への不安も最小限に押えられ乗り切れた。法人内での異動はしない方針であり、今後の職員定着へ向け努力中である。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホーム協会や市・社協主催の研修情報は入っており、時間の取れる職員が参加している。	○	職員個人のスキルアップの為に、段階に応じた研修計画(個人別育成計画)と実施が望まれる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会の勉強会や亀山市内の同業者の勉強会に出席しているし、隣接の4つの事業所との勉強会もある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気にながら馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人と面談のうえ、家族と相談・協力を得ながら、徐々に馴染めるようにして利用をすすめている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人と共に過ごし支えあう関係の大切さは職員も痛感しているが、離職者が出たために職員数に余裕がなく、現在利用者と一緒に過ごす時間が少ないのが悩みである。	○	同じ屋根の下で生活しているということは、「一緒に過ごしている」でもあるので、ぜひ会話を多くされ、忙しさを補う努力をお願いしたい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	できるだけ本人の意向に沿うよう努力しているが、聞いても答えの返ってこない場合が多く、家族と話し合いで希望や意向に近づけるよう支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	各職員には担当の利用者が決められている。利用者や家族の希望や意向をもとに職員全体でカンファレンスを行い、介護計画書を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の状態の変化のある場合は、優先して随時カンファレンス会議を行い見直しているが、定期的な見直しが十分対応し切れていない。	○	介護支援専門員が交代したのを機に、介護計画書の見直しを強力に進めている最中である。忙しい中ではあるが早期に情報の整理をされ、定期的な見直しの基礎固めをされることを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	隣接の高齢者向け賃貸住宅や特定施設入居者生活介護事業所の入居者を、デイサービスとして受け入れている。病院受診の送迎支援も行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医の有無、事業所の協力医について説明し納得の上、現在は全員が事業所の協力医を受診している。月2回の往診もあり本人・家族とも喜んでいる。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療の必要な人は病院に入院になるが、老衰に対しては実績もあり、事業所での終末対応を行う方針で入居時に説明をしている。職員も全員が終末期に向けた対応方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員会議等で言葉掛けや意識の向上について、折に触れ話し合っており、当日の支援状態の中でも「言葉使い」に配慮している様子が見えがえた。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースに合わせ、希望に沿うように努力している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員自らメニューづくりをし、買物、調理もできる利用者と一緒にしているし、職員も同じものを一緒に食している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	日曜日以外は毎日入浴できるし、隣のユニットに入浴しに行くこともできる。また同一敷地内にデイサービスがあり、そちらの大きな風呂に入ることも可能である。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴や趣味が把握されており、その人に合わせた楽しみ事を支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	全員一緒の外出は不可能で、交代で建物の周りを散歩したり、車で近くのコンビニに買物に出たりとその日の希望に沿った外出支援がなされている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵を掛けないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	今まで鍵を掛けていなかったが、現在複数の帰宅願望の利用者がおられるので、一時的に日中玄関を施錠している。	○	施錠の弊害についての認識は強く、鍵を掛けない取り組みへ向け努力中である。早期に従来と同じく鍵なしになることを期待する。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年1回利用者と一緒に避難訓練を実施しているし、防火訓練も夜間含め実施している。また災害用の水、食料を備蓄している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
		○栄養摂取や水分確保の支援			
28	77	食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	隣接の特定施設入居者生活介護事業所に管理栄養士がおり、メニューをチェックしてもらっている。食事の摂取量や水分摂取量も把握している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
		○居心地のよい共用空間づくり			
29	81	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間には居心地よく過ごせるようにテーブルやイスの他ソファや畳コーナーもあり、季節感を取り入れた手作りの飾りが壁に取り付けられているし、食事作りをする職員と会話のできる楽しい空間になっている。		
		○居心地よく過ごせる居室の配慮			
30	83	居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室はゆったりとベッドが2台入る広いスペースがあり、木製の箆筒が落ち着いた雰囲気を感じさせる。各居室とも写真やカレンダーなどで、それぞれの入居者の個性のある飾り付けがなされている。		